



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

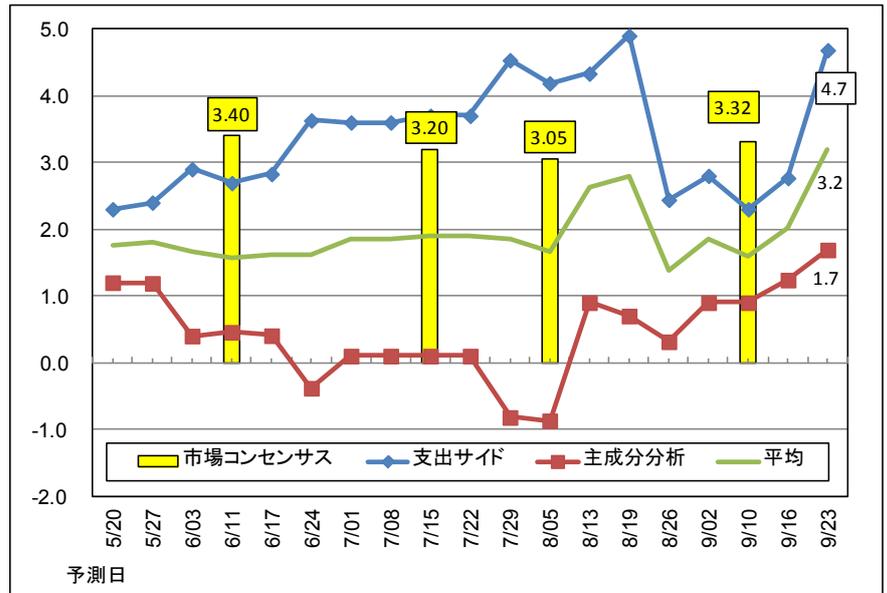
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年9月23日)

ポイント

- ▶今週は8月の貿易統計、7月の全産業活動指数、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計が予測に追加された。
- ▶7月の公共工事は前年比18ヵ月連続のプラスとなり、4ヵ月連続で加速している。季節調整値も3ヵ月連続の前月比プラス。結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から大幅上方修正された。
- ▶8月の輸出、輸入の実績はいずれも事前予測を上回ったが、先週からの輸出の予測修正幅は、輸入のそれを上回ったため、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正。
- ▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.7%と予測。先週(+2.8%)から大幅に上方修正された。公的固定資本形成の予測が上方修正され内需拡大はさらに加速。加えて、先週までマイナス寄与度を示していた純輸出は横ばいに転じたためである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



＜公的固定資本形成と純輸出の上方修正で、7-9月期成長率予測は4%を上回る＞

先週(9/16-9/20)に更新されたデータは、8月の貿易統計、7月の全産業活動指数、景気動向指数(改訂値)、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。これらは公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

7月の公共工事は前年比+25.8%と大幅増加した。伸びは18ヵ月連続のプラスとなり、4ヵ月連続で加速している。季節調整値(筆者推計)も前月比+6.3%増加し3ヵ月連続のプラス。結果、7月実績は4-6月平均比+16.1%と大幅に加速した。結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から大幅上方修正された。

8月の貿易収支は-9,603億円と14ヵ月連続の赤字を記録した。貿易赤字の増加率は前年比+25.0%と前月(+93.7%)から縮小。季節調整値は-7,914億円と30ヵ月連続の赤字となり、前月比-13.1%縮小した。2ヵ月ぶりのマイナス。結果、7-8月期(平均)貿易赤字は4-6月平均比+19.2%拡大した。8月の輸出、輸入の実績はいずれも事前予測を上回ったが、先週からの輸出の予測修正幅は、輸入のそれを上回ったため、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された。

新たに発表された月次指標を更新した今週(9/23)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+1.2%、同年率+4.7%と予測する。公的固定資本形成の予測が上方修正され内需拡大のスピードは前期からさらに加速する一方で、先週までマイナスの寄与度を示していた純輸出は横ばいに上方修正された。このように内需、外需が上方修正されたことにより、先週の予測(+2.8%)から大幅に上方修正された。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690